王位戦

地元からの応援を励みに 挑戦者の気持ちで（深浦）

市長　深浦王位は王位戦のタイトルを獲得され、防衛も果たされましたが、ご苦労も多かったのではないですか？

深浦　ぼくの場合は19歳でプロになって、初めてタイトルを獲得できたのが35歳で、15年以上の年月がかかったんですね。将棋界全体から見ましても珍しいケースで、35歳でタイトルを取ったのも遅い方から数えて四番目ぐらいだと聞いています。羽生さんなどは19歳でタイトルを取られているんで…。

市長　大器晩成型ですね（笑）。

深浦　大器晩成型って将棋界ではほとんどないケースなんです。A級まで上がるまで非常に長い道のりでした。「頭ハネ」というのがあって、例えば9勝1敗で同星同士でも、順位によって落とされてしまうことがあるんです。同星だった競争相手は階級が上がっていくのに、自分はまた同じ階級を1年間やらなくちゃいけないっていう悔しい思いを何度か経験しました。

でも佐世保の皆さんから「何とかA級に上がってくれ」とずっと応援していただいていて、その声がすごく励みになりました。そのおかげで粘り強くなったし、タイトルにも届くようになりました。羽生さんにも負け越してはいますが、太刀打ちできるようになりましたし、皆さんの応援のおかげだと思っています。

市長　防衛戦は、チャレンジするときと違って、また違う大変さがあったのではないですか？

深浦　一昨年の挑戦者のときには相手が羽生王位でしたので、本当にがむしゃらにやって、盤面に集中することを特に心掛けました。一年経った防衛戦では、挑戦者としての羽生さんと再度対戦しましたが、気持ちの上では前と一緒でしたね。逆に羽生さんが出てきてもらって良かったとプラスの面に考えました。そう考えると自然にチャレンジャーの気持ちになれて、それが良い結果につながったと思っています。

やりがい

佐世保の子どもたちのために 喜んでやりたい（溝上）

市長　溝上さんは今八段でいらっしゃいますが、大きなタイトル戦というのは経験されているんですか？

溝上　タイトル戦はまだ出たことがないんです。囲碁の場合、リーグに入るのが大変で、将棋のA級というのがリーグ入りのようなもので、これまでリーグに3回入ったことがあるんですが、いずれも（翌年は）全部落ちてしまったんです。なかなか定着することができずにいて、その壁が厚いといいますか、残れるようには、まだなってないですね。

市長　31歳だし、まだ今からですよ（笑）。

溝上　大器晩成型だと信じて（笑）、頑張ります。

市長　愛宕祭りの囲碁大会などで子どもたちに教えていただいているんですよね。

溝上　ぼくが子どものころは同世代で囲碁をやる人はほとんどいなかったんですけど、ぼくがプロになったころから佐世保でもいろんな環境の変化があって、囲碁をやってくれる子どもが増えたようなんですね。それをやりがいに感じていて、佐世保に帰って子どもたちに何かプラスになるようなことがあるんだったら、それは喜んでやりたいなと思っています。

佐世保

佐世保は語り尽くせないほど 思い出がいっぱいです（深浦）

市長　お二人とも佐世保を小さいころに離れていますが、ふるさとにはどんな印象や思い出をお持ちですか？

深浦　佐世保の思い出はいっぱいあって、本当に語り尽くせないくらいです。将棋の面では、小さいころに教えていただいた方が今日のような大会にも来ていただいていますが、少しでも恩返ししたいって思いますね。昨日は小学校の同級生数人で会って、みんな37歳ぐらいなんですけど、25年くらい前の記憶がすぐよみがえりました。懐かしい仲間がたくさんいて、会うとすぐ童心に返れますし、佐世保は思い出がいっぱいの街ですね。

山と海のある風景を見て 帰ってきたなと思います（溝上）

市長　溝上さんはどうですか？

溝上　佐世保は風景が印象的で、帰ってくるといつも風景を見て懐かしいなと感じます。山があって海もあってという風景が向こうに行くとなかなかないんですよね。佐世保特有の風景を見てやっと帰ってきたなと思いますね。

市長　やっぱり小さいときからの風景というのは頭に焼き付いているし、それを今でも同じように見ることができるってすごく嬉しいことですね。特に相浦だったから愛宕山などを見ると帰ったなというような感じがするんじゃないですか。

溝上　そうですね。

お互いの印象

深浦さんは すごくいい目標です（溝上）

市長　お二人は今、それぞれ別の道を歩いておられますが、お互いの印象などを教えていただけますか？

溝上　深浦さんは、やはり35歳でタイトルを取られていますので、すごくいい目標になっています。深浦さんのように一生懸命勉強していれば、いつかは取ることができるって自信になります。

市長　励みになりますね。

溝上　はい。棋風も粘り強い棋風で、ぼくも少し似てる部分があるので共感が持てます。深浦さんにはどんどんタイトルを取っていただきたいなと（笑）。ぼくもそれを追いかけていきますので（笑）。

溝上さんもタイトルを取れると 確信しています（深浦）

深浦　将棋と囲碁はお隣同士の業種なので、囲碁のプロに佐世保出身の方がおられると聞いたときには、すごくうれしかったですね。囲碁の世界って、今日本人だけの世界じゃなくて、韓国とか中国とか、強い国々がすごく台頭していて、その中で溝上さんの名前を見たときは「素晴らしい。大変な競争の中で頑張っておられるな」と思いました。今31歳。溝上さんも近い将来、タイトルを取れると確信していますので頑張ってください。

メッセージ

貪欲に 次のタイトルを狙います（深浦）

市長　市民の皆さんへのメッセージなどをお聞かせいただけますか？

深浦　12歳で佐世保を巣立ってから、修業時代も、タイトルホルダーである現在も、佐世保のことはひとときたりとも忘れたことがありません。佐世保の皆さんは自分の背中を押してくれる皆さんだと思っていますので、その期待に応えられるよう、これからも貪欲に次のタイトルを狙っていきたいと思います。

いつまでも佐世保らしい街で（溝上）

溝上　12歳で上京して20年くらい経つんですけど、佐世保という街はほとんど変わらない印象があります。これからも、人も街もいつまでも佐世保らしくあってほしいですね。

子どもたちへ

将棋で最後まで 成し遂げる力を（深浦）

市長　囲碁、将棋は子どもたちにすごく考える力を植えつけてくれると思うんですけど、いかがですか？

深浦　東京で最近よく見る光景で、公園などに子どもが集まるのは昔と一緒なんですけど、そこでみんなで携帯用ゲームをやっているんですね。コンピューターゲームは楽しいけど、ただ与えられた情報を進んでいくとか、処理していくとか、そういうことが多いんですよね。佐世保のお子さんたちには、ぜひとも将棋を覚えてもらって、自分で最初から最後まで成し遂げる力とか、組み立てる力などを養ってほしいと思います。

熱中できる 何かを見つけてほしい（溝上）

溝上　ぼくは子どもたちに囲碁をしてほしいという強い思いはなくて、たくさんある選択肢の中から囲碁を選んでくれてもいいかなぐらいに思っています。最近は、何かに熱中する楽しさを感じたことがない子どもがたくさんいるように思えるんです。ですから子どもたちにはぜひとも熱中できるものを見つけてほしいですね。何でもいいと思うので、そういうものを選んでほしいなと思います。

お二人へ

市長　今日は本当にありがとうございました。深浦王位におかれては、王位の防衛はもちろんですけど、新たなタイトルをぜひ二つも三つも、できれば七冠全部取っていただく（笑）、ようなことを期待していますし、市民もそういう気持ちだと思います。溝上八段におかれては、ぜひともタイトルを取ってください。

溝上　深浦さんが王位の間にぼくもぜひ天元戦でタイトルを取って、深浦さんと一緒に就位式をやりたいと思います（笑）。

市長　期待しています。お二人はまだ若いし、素晴らしい可能性を秘めていらっしゃると思います。これからも市民とともに応援していきますので頑張ってください。そして、今後とも佐世保の子どもたちに希望を与え、子どもたちが考える力を養えるよう、ふるさと佐世保でのイベントなどにもご協力をお願いします。今日はありがとうございました。

【囲碁】日本棋院佐世保支部・佐世保こども囲碁教室　☎23-3177（白川さん）、日本棋院長崎県北支部　☎49-6540（野込さん）

【将棋】日本将棋連盟佐世保支部　☎40-7866（松山さん）